

あたらしくはいった本 (令和2年11月 貸出開始資料から)

- 小説 とわの庭(小川糸/著) 湖の女たち(吉田修一/著) そして、海の泡になる(葉真中頭/著) 伊達女(佐藤巖太郎/著) 江戸染まめ(青山文平/著) 肉体のジェンダーを笑うな(山崎ナオコ/著) ふたりでちょうど200%(町屋良平/著) 浅草迄(北野武/著) きんのうのオレンジ(藤岡陽子/著) みがわり(青山七恵/著) 夢七日(いとうせいこう/著) コーチ(堂場瞬一/著) バグダードのフランケンシュタイン(アフマド・サアダーウィー/著)
- 随筆・詩などの文学 寂聴残された日々(瀬戸内寂聴/著) たべる生活(群ようこ/著) りん語録(谷村志穂/著) またいつか歩きたい町(森まゆみ/著) 猫だまし(ハルノ宵子/著) 和歌史(渡部泰明/著)
- その他の本 思考の教室(戸田山和久/著) 草原の国キルギスで勇者になった男(春間豪太郎/著) ブロークン・プリテンに聞け(プレイディみかこ/著) 志麻さん式定番家族ごはん(タサン志麻/著) 鉄道マーク大図鑑(松原一己/著) 下山の哲学(竹内洋岳/著)



『とわの庭』
小川糸
新潮社



『湖の女たち』
吉田修一
新潮社



『そして、海の泡になる』
葉真中頭
朝日新聞出版

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などのご協力をお願いします。

みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646
FAX (921) 4896
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

としょかんカレンダー

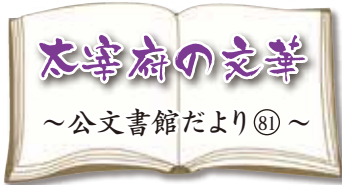
| 令和3年 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|------|-------|----|----|----|----|----|----|
| 1 | | | | | | ① | ② |
| | ③ | ④ | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| | 10 | 11 | ⑫ | 13 | 14 | 15 | 16 |
| | 17 | ⑱ | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| | 24/31 | ⑫ | 26 | ⑳ | 28 | 29 | 30 |

○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

鎌倉時代の太宰府機構

古代から継続し鎌倉時代に至っても、朝廷の九州出先機関である太宰府機構は厳然と存在していました。太宰府機構の発給文書は、太宰府機構から下部の機関や個人などに下達された「太宰府庁下文」、太宰府機構と上下関係のない機関に出された「太宰府政所牒(史料上は「帖」)、太宰府機構から京都にいる実質的長官の太宰権帥あるいは太宰大式に上申された「太宰府在庁官人等解」の3種類があります。鎌倉時代の太宰府機構による発給文書は35点。このうち、最初の2点を除き、連署者に「執行藤原」(あるいは「執行藤原朝臣」)がみえる点が、平安時代までの同様の書式と異なります。



～公文書館だより⑧～

鎌倉時代の太宰府機構発給文書のうち、半数近くは肥前国武雄社に宛てた太宰府庁下文です。武雄社は「府社」(太宰府機構が直轄支配した神社)であり、両者の間には上下関係が想定できますので、「下文」が使用されています。武雄社には宰府守護所(肥前守護・武藤氏)も文書を発給していますが、こちらは「牒」という文書様式が用いられています。宰府守護所―武雄社の間には上下関係がないためです。鎌倉時代の太宰府機構発給文書は元徳2(1330)年までみえ、朝廷―太宰府機構間の伝達ルートは鎌倉末期まで機能していたことが確認できます。これが南北朝時代には発給文書が姿を消し、太宰府機構がどうなったかのよく分かりません。太宰府機構発給文書の終見は正平16(1361)年ですが、この時期は九州南朝方の征西府が太宰府に置かれて全盛期を迎えており、一時的に旧来の太宰府機構を復活させたものと思われま。

公文書館 朱雀 信城